

てだこの語源

てだこは太陽の子の意味。琉球第二の王統を築いた、英祖王の敬称でもあった。伊祖城主・恵祖世主の妻が、懷に日輪が入る夢を見、懐胎して英祖王が生まれた。英祖王の神号は「えそのてだこ」といった。



市民の花木
オオゴチョウ

サンダンカ、デイゴと共に琉球三大名花の一つ。2～3mの高さに成長し、6月～11月に赤橙黄の花を咲かせます。とても栽培しやすい花木です。

浦添市の語源

「浦添」の地名は、津々浦々を支配するという意味の「うらおそい（浦襲い）」という言葉が語源。これが転じて「うらしい」となり、浦添の字があてられた。



市民の花
オオバナアリアケカズラ

南米原産、キョウチクトウ科に属するツル性の植物。4月～10月の約半年間、鮮やかな黄色の花を咲かせ別名ゴールデンカップと呼ばれています。



市章

「無限に進展する平和郷」浦添市を象徴。無限に発展する意はウの字突出部で表現、平和はウラソエの4文字を円形（円満即ち平和の意）に図案化して表現。



市民の木
ホルトのキ

方言名でターラシ、またはターラサー。沖縄本島では古来からカリーの木（おめでたい木）として知られています。常緑の葉に赤い下葉が混ざっています。

浦添市民憲章

わたくしたちは、
古い歴史と新しい希望にみちた、
てだこの都市浦添の市民として、
この憲章を定め誇りをもって
その実践につとめます。

- 一、わたくしたちは自然を愛し、みどり豊かなまちをつくります。
- 一、わたくしたちはきまりを守り、すみよいまちをつくります。
- 一、わたくしたちは働く喜びをもち、活気にみちたまちをつくります。
- 一、わたくしたちは平和を愛し、文化の香り高いまちをつくります。
- 一、わたくしたちは心と体をきたえ、明るく健康なまちをつくります。

昭和57年12月11日制定